

(第1頁)

産業廃棄物処理計画書

平成26年6月20日

兵庫県知事 殿

提出者

住 所 加古川市別府町西脇2-34

氏 名 ハリマペーパーテック株式会社

代表取締役 西田 祐介

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 079-435-1333

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ハリマペーパーテック株式会社
事業場の所在地	加古川市別府町西脇2-34
計画期間	平成26年4月1日から平成27年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	板紙製造業(1422)
②事業の規模	製造品出荷額 1,513百万円(平成25年度実績)
③従業員数	54人(平成26年3月31日時点)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

代表取締役	総務部	総務課	・廃棄物処理計画等の策定、行政報告 ・処理委託業者の選定、適正処理の確認 ・部署内の産業廃棄物の発生量の削減 ・部署内スタッフへの分別方法等の徹底
	製造部	製造課	

統括責任者：総務部長
 廃棄物の処理に関する担当部署：総務課

(会議体系：産業廃棄物関係)

①コンプライアンス委員会、コンプライアンス部会（環境部会、総務・安全部会）
 法令遵守状況の確認、法令違反リスクの抽出及び対策の立案・決定を行う
 廃棄物処理業者の新規・更新についての決定機関とする。
 委員長 代表取締役
 委員 各部長・製造課管理職・総務課管理職

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		別紙のとおり
	排出量	t	t
	（これまでに実施した取組） ①製紙汚泥の発生の抑制及び再資源化の拡大 中間処理設備の脱水工程の管理強化を図ることで自社での発生の減量を行う。また、ボイラ燃料として売却数量を対前年度比162 t増やし再資源化の拡大を図りました。 （有価売却率10%アップ：実績98.7%）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		別紙のとおり
	排出量		t
	（今後実施する予定の取組） ①製紙汚泥の発生の抑制 生産工程で、薬品等により原料歩留りを向上させ、汚泥の発生量を抑制する。また、操業品質トラブル低減の取組みにより生産原単位を向上させ、汚泥発生量を抑制する。 ②製品包装材のリサイクル（継続中） テープ・防湿フィルム等を再生可能な仕様に変更し発生の低減を図る。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 工場内の保管場所は、1) 汚泥 2) 木くず 3) 廃グラ 4) 紙くず 5) 鉄くず 6) 廃酸 7) 事業系一般 の種類毎にコンテナを設けて分別している。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 工場で発生する廃棄物の全てを分別して管理しており、現時点での分別等の計画はありません。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成25年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組) 特になし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組) 特になし	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（平成25年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t t
(これまでに実施した取組) 古紙溶解工程での未溶解削減を目的とした薬品の添加を23年度から実施、また、加圧浮上装置を23年6月に新設し、汚泥の一部を原料として再利用を行っています。		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t t
(今後実施する予定の取組) 新規加圧浮上設備の設置（平成23年6月から稼働開始）により、装置から発生する汚泥の一部を原料として再利用することで製紙汚泥の発生を抑制することを継続して実施します。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度（平成25年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組) 特になし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組) 特になし	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度（平成25年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	全処理委託量	t t
	優良認定処理業者への処理委託量	t t
	再生利用業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t t
	(これまでに実施した取組) 新規で委託をする場合には、再生資源が可能となる処分業者を選定することを第一目標として取り組み、実施しました。	

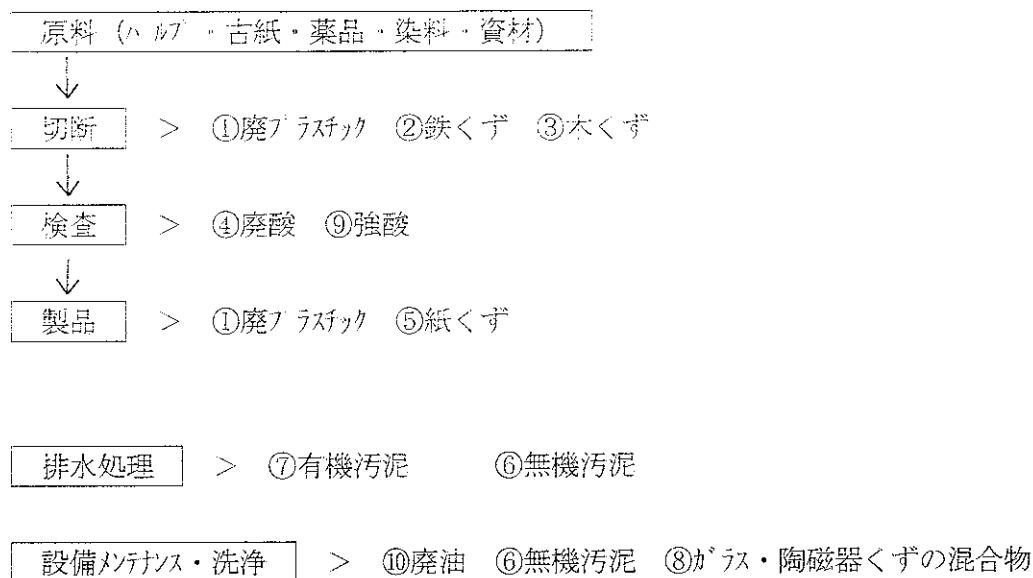
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	全処理委託量	t t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t t
	再生利用業者への 処理委託量	t t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t t
	(今後実施する予定の取組) 継続して再生資源が可能となる処分業者にて処分委託をする。	
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

○産業廃棄物の一連の処理工程



①廃プラスチック類

収集運搬<委託> → 破碎・圧縮成型<委託> → 埋立処分

②鉄くず

再資源原料として販売

③木くず

収集運搬<委託> → 破碎<委託> → 肥料化处理により再資源化

④廃酸

収集運搬<委託> → 中和処理<委託> → 燃料として再資源化

⑤紙くず

収集運搬<委託> → 市焼却設備にて焼却処分

⑥無機汚泥

収集運搬<委託> → 造粒固化・混練処理<委託> → 再生土として再資源化、一部埋立による最終処分

⑦有機汚泥

収集運搬<委託及び販売> → 炭化处理・混練処理により燃料化<委託> → ボイラ燃料、炭化土壌材として再資源化

⑧ガラス・陶磁器くずの混合物 (蛍光灯)

収集運搬<委託> → 破碎<委託> → 再資源化

⑨強酸・強アルカリ廃液 (特別管理産業廃棄物)

収集運搬<委託> → 中和処理<委託> → 燃料として再資源化

⑩廃油

収集運搬<委託> → 油水分離<委託> → 燃料として再資源化

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

○現状 前年度（平成25年度）

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
排出量	74,086 t	0.9 t	9.9 t	5.2 t

紙くず	ガラス・陶磁器混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
37.0 t	0.1 t	38.1 t	3.1 t	0.7 t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
排出量	73,983 t	0.8 t	9.4 t	4.9 t

紙くず	ガラス・陶磁器混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
35.2 t	0.1 t	36.5 t	3.0 t	0.6 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

○現状 前年度（平成25年度）

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
自ら再生利用を行った量	0 t	0 t	0 t	0 t

紙くず	ガラス・陶磁器混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
自ら再生利用を行った量	0 t	0 t	0 t	0 t

紙くず	ガラス・陶磁器混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

○現状 前年度（平成25年度）

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
自ら熱回収を行った量	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減量した量	72,009 t	0 t	0 t	0 t

紙くず	ガラス・陶磁器混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
自ら熱回収を行った量	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減量した量	72,009 t	0 t	0 t	0 t

紙くず	ガラス・陶磁器混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

○現状 前年度（平成25年度）

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0 t	0 t	0 t	0 t

紙くず	ガラス・陶磁器混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0 t	0 t	0 t	0 t

紙くず	ガラス・陶磁器混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

○現状 前年度（平成25年度）

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
全処理委託量	2,078 t	0.9 t	9.9 t	5.2 t
優良認定業者への処理委託量(委託の内)	0 t	0.9 t	1.3 t	0 t
再生利用業者への処理委託量	2,078 t (内2,022t売却)	0.9 t	9.9 t	5.2 t
認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t

産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス・陶磁器混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
全処理委託量	37.0 t	0.1 t	38.4 t	3.1	0.7 t
優良認定業者への処理委託量(委託の内)	0 t	0 t	0 t	3.1 t	0.7 t
再生利用業者への処理委託量	0 t	0.1 t	38.4 t (売却)	3.1 t	0.7 t
認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	37.0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（有機）	汚泥（無機）	廃プラスチック	木くず
全処理委託量	1,974 t	0.8 t	9.4 t	4.9 t
優良認定業者への 処理委託量(委託の内)	0 t	0.8 t	0 t	0 t
再生利用業者への 処理委託量	1,974 t (内1,944 t 売却)	0.8 t	9.4 t	4.9 t
認定熱回収業者への処 理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t

産業廃棄物の種類	紙くず	ガラス・陶磁器 混合物	金属くず	(特別管理)強酸	廃油
全処理委託量	35.2 t	0.1 t	36.5	3.0 t	0.6 t
優良認定業者への 処理委託量(委託の内)	0 t	0 t	0 t	3.0 t	0.6 t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	0.1 t	36.5 t (売却)	3.0 t	0.6 t
認定熱回収業者への処 理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	35.2 t	0 t	0 t	0 t	0 t

到達番号 : _ _ _

問合せ番号 :

産業廃棄物処理計画実施状況報告書の〔別紙〕

提出者						
住所	名称	担当部署	担当者名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業場を総合的に管理する支店等の住所	産業廃棄物を排出する事業場を総合的に管理する支店等の名称	報告担当部署の名称	報告担当者の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス
兵庫県加古川市別府町西端2-24	ハリマペーパーテック㈱	総務部総務課	藤山 友秀	079-435-1333	079-435-2980	t.haseyama@hatsuchi.co.jp

産業廃棄物の種類		計 画 の 実 施 状 況														②+⑧	③+⑨		
コード	名称	①排出量	②自ら直接再生利用した量	③自己直接埋立処分又は海洋投入処分した量	④自ら中間処理した量	⑤④のうち熱回収を行った量	⑥自ら中間処理した後の残存量	⑦自ら中間処理により減量した量	⑧自ら中間処理した後再生利用した量	⑨自ら中間処理した後埋立処分又は海洋投入処分した量	⑩直接及び自ら自己処理した後の処理委託量	委託先による区分					⑪優良認定処理業者への処理委託量	⑫自ら再生利用を行った量	⑬自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量
		発生した産業廃棄物の種類ごとの量	①の量のうち、中間処理せず直接自ら再生利用した量	①の量のうち、中間処理せず自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	①の量のうち、自ら中間処理した産業廃棄物の当該中間処理前の量	④の量のうち熱回収を行った量	⑥の量から⑤の量を差し引いた量	⑧の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量	⑨の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量	⑩の量のうち、処理業者への再生利用委託量(⑬、⑭を除く)	⑭熱回収認定業者への処理委託量	⑮熱回収認定業者以外の熱回収業者への処理委託量	⑯その他の中間処理委託量	⑰埋立処分委託量	⑱の量のうち、優良認定処理業者への委託処理量	⑫の量と⑬の量を合計したもの(自動計算)	⑭の量と⑮の量を合計したもの(自動計算)		
1	0210 汚泥(有機汚泥)	74.086			74.057		0	72.009		2.078	2.078							0	0
2	0220 汚泥(無機汚泥)	0.9								0.9	0.9							0	0
3	0600 廃プラスチック類	9.9								9.9	9.9							0	0
4	0800 木くず	5.2								5.2	5.2							0	0
5	0700 紙くず	37.0								37.0				市焼却設備	37.0			0	0
6	7100 強酸	3.1								3.1	3.1							0	0
7	1300 ガラス・陶磁器混合物	0.1								0.1	0.1							0	0
8	0300 廃油	0.7								0.7	0.7							0	0
9	1200 金属くず	38.4								38.4	38.4							0	0
10																		0	0
11																		0	0
12																		0	0
13																		0	0
14																		0	0
15																		0	0
16																		0	0
17																		0	0
18																		0	0
19																		0	0
20																		0	0
合計		74.182	0	0	74.057	0	0	72.009	0	2.173	2.136	0		37	0	11	5	0	0